

<プレスリリース>

(本文)

※BCCにて失礼致します

* 情報解禁 4月12日(月)

いつもお世話になっております。

6月12日(土)より、渋谷 ユーロスペースにて、「作家主義 ホン・サンス」開催。

「カンウォンドのチカラ」「オー！スジョン」初期の名作を連続上映

映画という芸術の最先端を走り続ける名匠ホン・サンス監督の初期名作「カンウォンドのチカラ」(98)と「オー！スジョン」(00)が連続上映される。

60年代にジャン＝リュック・ゴダールが、80年代にヴィム・ヴェンダースが、90年代にウォン・カーウアイがいたように、00年代以降の映画はホン・サンスによって更新され続けている。96年のデビュー作「豚が井戸に落ちた日」以来、韓国のみならず、有名映画祭を中心に世界中を驚かせてきた彼は、「反復」と「差異」に特徴付けられる独自の映画話法を使ってストーリーテリングの呪縛から軽やかに逃れ、人間という哀しくも愛おしい生き物の素顔を、乾いたユーモアを交えて描き続けてきた。その作品は、年を追うごとに深みを増し、昨年の「逃げた女」に続き、最新作「Introduction(原題)」も、ベルリン国際映画祭で受賞(銀熊賞/最優秀脚本賞)を選ばれた。

そんなホン・サンス監督の初期名作である「カンウォンドのチカラ」(98)と「オー！スジョン」(00)は、韓国映画の新しい時代を創造した革新的な作品であると同時に、「ホン・サンスがいつホン・サンスとなったのか」が刻印された貴重な2本だ。

公開当時にホン・サンス監督が「私たち自身をもう一度見つめるような映画が作りたかった。同時にそれが“写実的な”映画になってしまうのは嫌だった」と語った「カンウォンドのチカラ」は、友人と共に観光地として知られる江原道(カンウォンド)を訪れた女性の大学生の行動を見守る前半と、同じ場所を同じ時期に訪れていた男性の大学教師が登場する後半とに分かれている。映画が進んでいくうちに、2人が別れて間もない恋人同士であったことが次第に明らかになるこの映画からは、同じ時間を過ごしながらも決定的に違う風景を見ることしかできない人間という存在の虚しさが伝わる。一方、出会いから初めての一夜までの過程を、男女それぞれの視点から描く「オー！スジョン」では、冬のソウルをとらえた美しいモノクロ映像の中で、それぞれの欲望によって微妙に歪められた記憶の物語が綴

られていく。この作品の韓国公開から5年後に惜しくも世を去った女優イ・ウンジュが、前半と後半でまったく違って見える女性スジョンを見事に演じ分けている。

世界を魅了し続ける映画作家ホン・サンスの25年におよぶ旅の始まりを目撃することは、彼の芸術性を再発見する絶好の機会となるだろう。

「カンウォンドのチカラ」

友人たちと共に、自然豊かな江原道（カンウォンド）へと遊びにきた大学生イ・ジスク（オ・ユノン）。親切な警察官と知り合った彼女は、しばらくした後、再び彼に会うため、江原道を訪ねる。一方、教え子であるジスクと別れたばかりの大学講師チョ・サングォン（ペク・チョンハク）も、後輩に誘われて江原道へとやってくる。ホン・サンス監督の長篇第2作で、そのスタイルの原点。同じ時に同じ場所を訪れていながらまったく出会うことのない元恋人同士が経験する、似ているようで微妙に違う出来事と心の変化を2部形式でディテール豊かに見せる。主演は共に本作で映画デビューを果たした「秘蜜」（04）のオ・ユノンと「私の頭の中の消しゴム」（04）のペク・チョンハク。

「オー！スジョン」

ホテルの部屋で恋人ヤン・スジョン（イ・ウンジュ）を待っているキム・ジェフン（チョン・ボソク）。画廊を経営する彼は、テレビ番組のディレクターのクォン・ヨンス（ムン・ソングン）と一緒に展覧会を訪れた構成作家のスジョンと出会い、恋に落ちたのだった。一方、ジェフンからの電話を自宅で受けたスジョンも、2人のこれまでを振り返っていた。ホン・サンス監督の長篇第3作。男女それぞれの記憶をもとに出会いからセックスへと至るまでの心情と行動が美しいモノクロ映像で描かれていく。男性から見たスジョンと、自分の記憶の中のスジョンを演じ分けたのは「ブラザーフッド」（04）のイ・ウンジュ。「妻の恋人に会う」（07）のチョン・ボソク、「夜の浜辺でひとり」（17）のムン・ソングン共演。

ホン・サンス

1961年10月25日、ソウル生まれ。96年に「豚が井戸に落ちた日」で長篇デビュー。「カンウォンドのチカラ」（98）と「オー！スジョン」（00）はカンヌ国際映画祭ある視点部門に出品された。絶え間ない創作活動と、作品ごとに見せる新たな試みを続ける、世界でも稀な監督として知られ、新作のワールド・プレミア上映は常に主要国際映画祭で行われている。「正しい日 間違えた日」（15）がロカルノ国際映画祭金豹賞（グランプリ）、主演男優賞（チョン・ジェヨン）を受賞。「夜の浜辺でひとり」（17）、「逃げた女」（20）、「Introduction」（21）はいずれもベルリン国際映画祭で銀熊賞（主演女優賞／キム・ミニ、

監督賞、脚本賞) に選ばれている。

<フィルモグラフィ>

- 1996 豚が井戸に落ちた日 *映画祭のみ
- 1998 カンウオンドのチカラ
(DVD化タイトル カンウオンドの恋)
- 2000 「オー!スジョン」
(DVD化タイトル 秘花~スジョンの愛~)
- 2002 気まぐれな唇
- 2004 女は男の未来だ
- 2005 映画館の恋
- 2006 浜辺の女
- 2008 アバンチュールはパリで
- 2009 よく知りもしないくせに
- 2010 ハハハ
- 2010 教授とわたし、そして映画
- 2011 次の朝は他人
- 2012 3人のアンヌ
- 2013 ヘウオンの恋愛日記
- 2013 ソニはご機嫌ななめ
- 2014 自由が丘で
- 2015 正しい日 間違えた日
- 2016 あなた自身とあなたのこと (劇場未公開)
- 2017 夜の浜辺でひとり
- 2017 クレアのカメラ
- 2017 それから
- 2018 草の葉 *映画祭のみ
- 2019 川沿いのホテル *映画祭のみ
- 2020 逃げた女 (6月11日公開)
- 2021 Introduction (劇場未公開)

*映画祭のみは、国内映画祭での上映のみ

「作家主義 ホン・サンス」

「カンウォンドのチカラ」

監督・脚本：ホン・サンス

出演：オ・ユノン／ペク・チョンハク

韓国 1998年／109分

原題 강원도의 힘 The Power of Kangwon Province

©MIRACIN ENTERTAINMENT CO.LTD

「オー！スジョン」

監督・脚本：ホン・サンス

出演：イ・ウンジュ／チョン・ボソク／ムン・ソンゲン

韓国 2000年／126分

原題 오!수정 Virgin Stripped Bare by Her Bachelors

©MIRACIN ENTERTAINMENT CO.LTD

6月12日（土）より渋谷 ユーロスペースにて公開

「作家主義 ホン・サンス」公式サイト

「作家主義 ホン・サンス」予告編

「作家主義 ホン・サンス」写真キット

////////////////////////////////////

<お問い合わせ先>

宣伝：A PEOPLE 小林千寿（こばやしちひろ）

ap_cinema@apeople.jp

////////////////////////////////////